



2025 年 4 月 11 日

各 位

ENEOS 株式会社
スズキ株式会社
株式会社 SUBARU
ダイハツ工業株式会社
トヨタ自動車株式会社
マツダ株式会社

エンジン搭載車両のカーボンニュートラル化に向けて合成燃料の活用で連携 ～大阪・関西万博の会場内で運行される合成燃料を使用した車両を提供～

ENEOS 株式会社（代表取締役社長 山口 敦治、以下「ENEOS」）、スズキ株式会社（代表取締役社長 鈴木 俊宏、以下「スズキ」）、株式会社 SUBARU（代表取締役社長 大崎 篤、以下「SUBARU」）、ダイハツ工業株式会社（代表取締役社長 井上 雅宏、以下「ダイハツ」）、トヨタ自動車株式会社（代表取締役社長 佐藤 恒治、以下「トヨタ」）、マツダ株式会社（代表取締役社長 毛籠 勝弘、以下「マツダ」）は、2025 年日本国際博覧会（以下、「大阪・関西万博」）開催期間中※¹の来賓・関係者向け車両の会場内運行において、合成燃料を混合した燃料を使用した乗用車の提供を行いますので、お知らせします。

ENEOS は、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）「グリーンイノベーション基金」のご支援※²のもと、2024 年 9 月に ENEOS の中央技術研究所内に完成した実証プラント※³で製造した合成燃料を、トヨタ、マツダが提供する来賓向け車両、およびスズキ、SUBARU、ダイハツが提供する関係者向け車両に供給します。使用される合成燃料でガソリン同様に走行できることをスズキ、SUBARU、ダイハツ、トヨタ、マツダにて事前に確認しています。

合成燃料は、再生可能エネルギー由来の水素と CO₂ を原料としており、製品ライフサイクル全体において CO₂ 排出量を抑えることのできるクリーンな燃料です。液体燃料である合成燃料は、既存インフラを活用できるため、内燃機関の CO₂ 排出量削減にも貢献することができます。

ENEOS、スズキ、SUBARU、ダイハツ、トヨタ、マツダの 6 社は、大阪・関西万博での来賓・関係者向け車両の運行を通じて、合成燃料で走るエンジン搭載車両がカーボンニュートラルに向けたモビリティの重要な選択肢の 1 つであることを発信するとともに、大阪・関西万博が掲げる持続可能性の方向性を示す「[EXP02025 グリーンビジョン](#)」※⁴の達成に貢献してまいります。

※1 2025 年 4 月 13 日（日）～10 月 13 日（月）

※2 CO₂ からの合成燃料製造技術開発が、NEDO の「グリーンイノベーション基金事業／CO₂ 等を用いた燃料製造技術開発プロジェクト」に採択。

※3 ENEOS リリース 2024 年 9 月 30 日公表

[国内初となる原料から一貫製造可能な合成燃料製造実証プラントが完成](#)

※4 大阪・関西万博の持続可能性に関する取り組み

[持続可能性に関する取り組み | EXP0 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト](#)

【来賓向け車両】



トヨタ：ヴェルファイア HEV Z PREMIER



マツダ：CX-80 PHEV

【関係者向け車両】



スズキ：スペーシア HYBRID X



SUBARU：クロストレック S:HEV



ダイハツ：ロッキー Premium G HEV

以 上